

第三部 だいさんぶ 第一話 だいいちわ 生き物のくいがて いきものくいがて

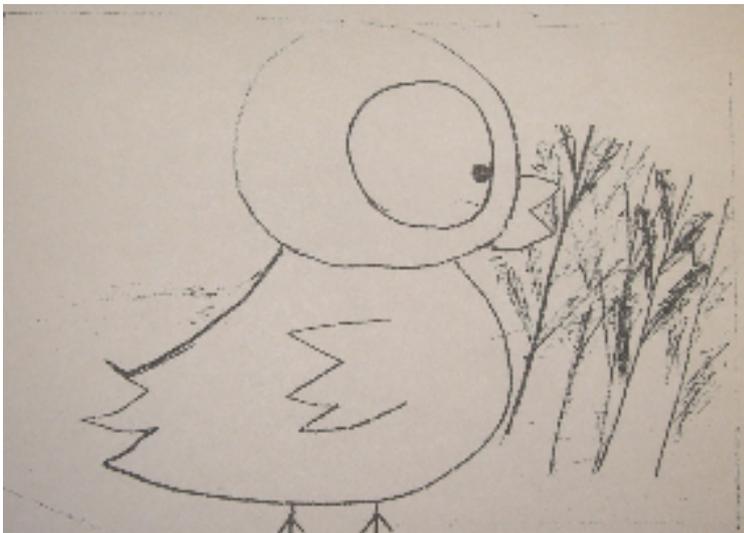
昔 むかし 々 むかし のことじゃった。お釈迦 しやくか さんの死 し になさる とき 時に、世界 せかい 中の じゆう いろいろな生き物 もの に、くいがて (食べる量) りよう を定 さだ めてくださることになつたんやと。

すずめは、お釈迦 しやくか さんに会 あ いに行 い く時 とき、あんまりあわててしまつて、何 なに かにけつまずいたんやと。それで、今 いま でも足 あし が不自由 ふじゆう で、ピョン

ピョン跳 と んで歩 ある いているんやとさ。

そんでも、一 いち 番 ばん 初 はじ めに來 き たんで、お釈迦 しやくか さんは

「何 なん でも初 はつ 穂 ほ を食 く え。」



と、言ったのやと。

それで、すずめは今も稲の初穂を食うている。

ヘラツツキ（キツツキ）は、だてこいてしまっていたんで、一番遅れて来たんやと。それで、今も、ヘラ
キツツキは堅い木をつついて中の虫を三匹とつても、自分は一匹しか食べれんのやと。

ミミズは、お釈迦さんに、

「おまえは、土を食べよ。」

と、言われたんやと。それでも、ミミズは、

「土を食べてしもうたら、何を食べたらいいのでしょうか。」

土はこんなたくさんあるのに、欲張ったことを言うたんで、お釈迦さんはあきれて、

「おまえみたいなのは、^{あめ}雨の降る日に道へ出て、^{うま}馬に踏まれて死^ししまえばよいのじゃ。」

と、^い言われて、それでミミズは^{あめ}雨の降る日に道へ出て、^{ひと}人や^{うま}馬に踏まれるようになったんやって。

たくさん^いの生き物が、われもわれもと^お押しかけたんで、^{きようそう}競争^き争^{そう}になったんやと。

ギヤル（かえる）は、^{さき}へびと^{あらせ}先を争^あ争^らって、

「きさまなんか、けつくらってしまえ。」

と、^い言^いったんで、^{いま}今では、^{へび}へびはギヤルを^けけつ^{から}から^{のみ}飲み^{込む}込むのやとさ。

